

令和元年「鎌足桜の魅力」コンテスト入賞作品

鎌足中学校  
特別展

令和元年 11月26日～28日

木更津市鎌足桜保存会

---

木更津市鎌足桜保存会

## 鎌足中学校「特別展」に寄せて

木更津市鎌足桜保存会会長（木更津市副市長）

田中幸子



「鎌足桜の魅力」コンテストに多くの中学生に応募いただき、本当にありがとうございました。地域のシンボルである「鎌足桜」を若い皆さんがどのように見て、どう感じているのか、思いがよく伝わる作品の数々にとても感動しました。

台風になげなかつた鎌足桜が来春もきれいな花をさかせてくれるはずですよ。そんな鎌足桜を愛し支えていく皆さんの思いをこめた作品をこれからもお待ちしております。



### 木更津市鎌足桜保存会より

木更津市鎌足桜保存会は木更津市指定文化財「鎌足桜」の保護育成を目的に活動している組織です。私たちは鎌足桜の苗を育成したり植樹したりする他に、「さくら公園」周辺の草刈りなどのボランティアも行っています。また、『写真と短歌・俳句コンテスト』を実施し、入賞作品を題材にしたカレンダーも作成しています。コンテストとカレンダーづくりは、鎌足桜を広く知ってもらいたくために文化面から大きな成果を生み出しています。

今回、コンテストの特別展を鎌足中学校で開催できることを大変うれしく思っています。特に若い皆さんに保存会の活動に関心をもってもらえたことが大きな力になりました。

これから日本は少子高齢化という大きな課題取り組まなくてはなりません。鎌足もその傾向が顕著にあらわれています。しかし、鎌足には「まちづくり協議会」を中心とした自治活動とそれを支える豊かな人のつながりがあります。むしろ鎌足は少子高齢化の先進的な取り組みができている地域だと思います。

鎌足中の皆さんが地域総合学習で取り組んだように、鎌足の大人たちもよりよい地域づくりのために活動をしています。

今の鎌足中の取り組みに自信をもってください、やがては学校教育目標にある「故郷の未来を拓く人」になってくれることを願っています。

令和元年 11 月 26 日

---

## 講師講評<写真の部> 木島 衛さん

今年から新たにインターネットでの応募も始まり、また、天候も昨年より良かった事もあり、応募数も昨年より27点程増え、最終的に23人で84点の応募がありました。関係者として大変うれしく思っています。

公募は、今回で6回目となりますので、皆さん題材探しには大変苦労している事と思います。その中で今年もまだ見た事のない作品が多くあったことは、うれしい限りです。皆さんの努力には敬服するしだいです。今年もバラエティーに富んだ作品が集まり、楽しく審査ができた事に感謝申し上げます。

審査は、まず、ピントが極端に甘いもの、ぶれているものは、残念ながら審査の対象外としてから、審査員全員による投票で作品を選出いたしました。その次に個々の作品に対する投票点数や写真のバランス等を考慮し、上位2点、入選8点、佳作3点の計13点を決定しました。

鎌足桜保存会会長賞の黒須俊夫さんの作品「漂う風格」ですが、生命力とダイナミックさを感じる素晴らしい作品です。アカデミア公園にある古木ですが、朽ちようとする古木の木の肌に光が差し込み、立体感が強調されていますし、縦位置にすることによって高さが強調されています。周りの雰囲気も良いですし、特にいいのが、白く光る飛び気味の雲があることによって古木の生命力を強く感じますし、構図もしっかりしていて大変素晴らしい作品だと思います。

鎌足公民館館長賞の中山要三さんの作品「練習中」ですが、親子の微笑ましい感じが良く出ている作品です。ここの「さくら公園」の作品は、良くコンテストでも出てきますが、動きのある作品はありませんでした。今回、中山さんの作品は、桜を主体に置きながらも脇役として親子の自転車乗りの練習風景を入れたことによって動きのある作品となりました。母親の子供にそっと添えた手や仕草が自然で親子の絆を感じます。

最後にこのコンテストは、鎌足桜だけのコンテストですので、同じような作品がたくさん出てきます。他の人と違った観点から作品作りをすると今年の上位作品のように入賞の確率も高くなると思いますので、研究をして是非、来年も応募して頂きたいと思います。

## 講師講評＜短歌の部＞ 鈴木真澄さん

短歌の部では122首の作品を応募していただきました。今年はメールでの応募も行われて、地元木更津はもとより、県内や全国からも作品がよせられました。昨年より35首多く、これはとても嬉しいことでした。

審査はあらかじめ各実行委員の皆さんが10首ずつ選び、その結果をもとに点数の上位から検討し、次のような結果になりました。

鎌足桜保存会会長賞の上杉章子さんの「無住寺の鐘つき堂のかたわらに今年も咲けりかまたり桜」では、「無住寺」ということばが生きていると思います。住職のいない寺の、しずかな古いたたずまいが想像されます。その鐘つき堂のかたわらに人しれず咲く桜を詠っています。「今年も咲けり」が歌に深みを加えています。情感のある歌です。

鎌足地区区長会会長賞の中沢敬子さんの「風のままさくらの花のゆらぎいて春の喜び我が胸に満つ」は、吹いている風に従って自在に揺らぐ桜の花、それを無心になって見ている作者です。言葉の運びがいいです。そして下の句では、作者自身の内に溢れる喜びを率直に言って、気持ちがよく伝わってきます。

その他、入選8首、佳作3首でした。今年の作品は「旧かな遣い」と「新かな遣い」が半々くらいでした。今はどこの大会でも同じ傾向にあります。

「新かな」でも「旧かな」でも自由ですが、「旧かな」の方が格調が高くなるということは言えると思います。

いずれにせよ、最も大切なことは一首の中に自分のとらえたところのある歌、確かな内容のある歌であることです。

今年は中学生の入選もあり、大人の歌の中に混じっていきいきと存在感を示していました。

4月の半ばから咲く美しい鎌足桜を、また皆さんに是非見にいただきたいと思います。そして歌にしてみてください。日本人には誰にもその素養が備わっているといわれていますから。

## 講師講評＜俳句の部＞ 川合憲子さん

俳句の部は94人（242句）の応募がありました。その中でも地元の鎌足中学校が全校で地元の歴史ある鎌足桜の俳句に取り組み、38人（86句）の応募があったことは大変素晴らしいことでした。これは、地域の文化や伝統を継承することを学ぶと共に、更に生徒にとっての「ふるさと」を大切にしていくなにつながって行くことと思います。

作品の審査ですが、生徒の作品を一般の作品と一緒に審査することは少し無理がありますので、今回は生徒作品3句を佳作としました。その際、自分のことばで素直に表現している作品、言いたいことを具体的に表現している作品を選びました。

一般作品ですが、どうしても発想や材料が似てきます。鎌足桜保存会の皆様との話し合いの席で「鎌足桜ははらはらと散らないよ」「やはり鎌足という言葉があった方が」とう声を聞きました。

鎌足桜保存会会長賞の須田眞里子さんの「八重桜満ちて鎌足日和なり」は満開の鎌足桜となった地元への挨拶句として「鎌足日和」が今までになかった表現で賛同を得ました。

新千葉新聞社社長賞の石井紀美子さんの「ひびき合う光よ風よ花万朶」は、大変リズムカルで「光よ風よ」のリフレインが明るくさわやかです。

入選の岩瀬由美子さんの「公園に弾む声あり八重桜」は「弾む声」、森孝子さんの「さくら咲く子の声あふれ日のあふれ」はリフレインの楽しさとひらかな表記等細やかな作品、更に、多くが夕暮れの景を詠む中で金澤恵子さんの「鎌足の朝の集落花明り」は、朝の鎌足の風景が静かに描かれ新鮮でした。

入選の元吉和江さんの「よく笑ふ女四人や八重桜」と同じく入選の川俣婦美子さんの「ご朱印の文字黒々と里桜」は、鎌足桜と全く違うものを取り合わせた句として、鎌足桜の雰囲気をよく出していると思います。

今回、初めて俳句の審査をさせていただきましたが、郷土を愛する鎌足の皆様とご一緒にお仕事が出来たことを幸せに思います。ありがとうございました。

# ひと

地域に根づく まったり書家

ほんだ ふみ  
本多 二三 さん(65)



「はい、すー、勢いよくー、とん」  
書道教室には今日も、軽やかな掛け声が響く。そのリズムにのって、生徒たちが元気に筆を動かしている。書道を好きになってもらいたい。その一心から、地域での書家活動と、教室を始めた。  
高校二年の夏、お世話になっていた書道教室の先生が倒れた。人手が足りなくなった教室を支えるため、生徒の一人から突然教える立場へ。  
「これだ。教えるのって面白い。」  
意外にもそう思った。  
それをきっかけに、本格的に書道の道へと進んだ。そして書家の夫と結婚後、夢のマイ教室を開いた。千葉県木更津市鎌足地区に移り住んだのは二十三年前。その時から、地域に根づく書家としても活動している。  
地域のあちこちにある案内看板の文字。中臣鎌足伝説がある名花、「鎌足桜」のカレンダー。さまざまな所に書いてきたが、辞めたくなくなるときもある。「何百枚も書いてかいて、墨の無駄。紙の無駄。そう思ったときは、まったりお茶でも飲もうかな」  
将来の道として、書家を志す者は少ない。このままでは書家は減る一方なのではないか。だから、マイ教室での指導も大切だ。生徒に教えるときに意識していることは、「基礎のタネ」を蒔いてあげること。表現の変化は生徒自身にまかせろ。そうすることで、いつしかそのタネが芽吹くのだろう。

文・写真 齋藤七海

記事【朝日新聞・津田塾大学】  
執筆者の齋藤七海さんは鎌足中の卒業生です

## 短歌・俳句の「書」を担当 本多二三さん

現代では手紙もほとんど書かなくなり、メールが主流となっています。しかし、自分で書くことはとても大切だと思います。自分の考えていること、思っていることを一番知ってもらいたい人に自筆で書き綴ると、自然に丁寧に真剣になります。丁寧に美しい文字、読みやすい文字で書かれていたら、相手への伝わり方も変わります。

二女が中二の時に転校してきて以来、何かお役にたてればと思い、鎌足中のボランティアとして書初めにかかわらせていただいています。

自分の好きな「書」で地域にお役にたてることは喜びでもあります。でもこれはとても勇気のいることです。字は誰もが書くし、もっと上手な方々がたくさんおられるのですからね。それでも今、私にできることのひとつに「書」があること。活字ではない心のこもった生きた書で、これからも地域とつながっていけたらいいなと思っています。

## 鎌足桜保存会のホームページ

鎌足桜保存会では活動の様子をHPで発信しています。  
ぜひ、ブックマークをお願いします。



トップページ 鎌足桜の特徴 鎌足桜伝説 鎌足桜の植栽場所 入会申込み

千年のロマンを秘めた珍種の八重桜、木更津市鎌足桜保存会

### 木更津市鎌足桜保存会

電話でのお問い合わせはTEL.0438-52-3111  
〒292-0812 千葉県木更津市矢那899-1

news新着情報

- 2019年10月20日 令和元年度最終の鎌足桜公園の下草を行いました
- 2019年10月3日 台風被害にあった鎌足桜について新しい苗を提供します
- 2019年10月3日 令和2年(2020年)版鎌足桜カレンダーの配布について(ご案内)
- 2019年9月1日 令和元年度『鎌足桜の魅力』写真と短歌・俳句コンテスト表彰式がおこなわれました  
表彰式次第  
写真と短歌・俳句コンテスト表彰式

Information

木更津市鎌足桜保存会  
〒292-0812  
千葉県木更津市矢那899-1  
TEL.0438-52-3111  
FAX.0438-52-3111

『令和2年度鎌足桜加いター』予約申し込み書

### ホームページ担当 齋藤和利さん

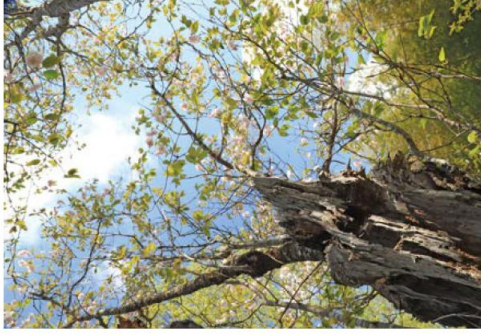
鎌足桜を紹介するホームページの最初は、「鎌足を考える会」のホームページを立ち上げた平成16年からです。

地元鎌足をもっと知ろうと『鎌足ふるさとかるた』を、茂田愛子さん・田丸恵さん・小林弘子さん達が作成し、その中で鎌足桜が紹介されました。「鎌足を考える会」の中で鎌足桜の魅力をみんなに知ってもらおうと鎌足桜基金を文化祭等で呼び掛け、ホームページ等で広く公開しその後に、現在の木更津市鎌足桜保存会のホームページが平成28年に作成されました。

常に最新の情報をホームページを通じて発信し、多くの人に鎌足桜の魅力を知って頂ければ幸いです。

# 令和元年度「鎌足桜の魅力」写真と短歌・俳句コンテスト表彰作品

鎌足桜保存会会長賞  
 「漂う風情」アカテミア公園  
 黒須 俊夫



鎌足公民館館長賞  
 「練習中」鎌足さくら公園  
 中山 要三



入選  
 「桜とお地藏さん」栢安寺  
 黒須 雪美



入選  
 「春到来」鎌足さくら公園  
 春川 修夫



入選  
 「舞踏会」富士見ヶ丘  
 下村 正昭



入選  
 「並んだ並んだ」鎌足公民館  
 遠藤 健二



入選  
 「開花夢見て」矢那  
 伊藤 洋子



入選  
 「誇る鎌足桜」矢那川ダム公園  
 倉園 博志



入選  
 「鎌足の里に咲く」音羽神社  
 小島 良一



入選  
 「黄昏」矢那川ダム公園  
 後藤 秀美



佳作  
 「栢安寺の六地藏の花見」栢安寺  
 大岩 重利



佳作  
 「The 鎌足桜」總藏寺  
 諏訪 貞夫



佳作  
 「見あげれば満開」アカテミア公園  
 高野 文雄



## 短歌の部

鎌足桜保存会会長賞

無住寺の鐘つき堂のかたわらに今年も咲けりかまたり桜

上杉 章子

鎌足地区区長会会長賞

風のままさくらの花のゆらぎいて春の喜び我が胸に満つ

中沢 敬子

入選 悲しみの先に咲きたる鎌足の村の桜はいよよ華やぐ

本多二三代

入選 いはれある桜の普及に尽くしたるわが友今年の花見ず逝けり

志村 照子

入選 小雨降る高蔵寺の樹木葬濡れて散り敷く鎌足桜

上杉 義隆

入選 鎌足の里に生まれし八重桜ゆかしき謂れ継ぐ桜守

山本 昌子

入選 校庭の鎌足桜匂ひ立ち入学児等と共に咲き満つ

安田 清一

入選 ふるさとの空を明るく染めようと花を咲かせる鎌足桜

鮎澤 拓生

入選 八重桜見上ぐる人の頬ゆるむ桜の精の舞ひおるるかな

松本キエ子

入選 故郷の父母にメールで伝えをり鎌足桜今を盛りと

石井 清次

佳作 やはらかき若葉に寄り添ひ八重に咲く里の桜のいのち明るし

鈴木 紫乃

佳作 待ちかねし開花の便り聞きつけて今年も出合ふ鎌足桜

岩澤 けい子

佳作 見上ぐれば鎌足桜堂々と青き大空薄紅に染む

須山 恵美

## 俳句の部

鎌足桜保存会会長賞

八重桜満ちて鎌足日和なり

須田 眞里子

新千葉新聞社社長賞

ひびき合う光よ風よ花万朶

石井 紀美子

入選 公園に弾む声あり八重桜

岩瀬 由美子

入選 さくら咲く子の声あふれ日のあふれ

森 孝子

入選 鎌足の朝の集落花明り

金澤 恵子

入選 よく笑ふ女四人や八重桜

元吉 和江

入選 ご朱印の文字黒々と里桜

川俣 婦美子

入選 夕月夜小径の先の花明り

吉田 暁美

入選 千年の明かり鎌足桜かな

高橋 正子

入選 梵鐘のこだます里の夕桜

西原 千鶴子

佳作 桜咲くのばす手のひら空を切る

仲村 なえ

佳作 雨上がり水溜りにうつる八重桜

大岩 璃子

佳作 帰りぎわ別れをおしむ花かざり

石渡 芽衣